

第2回

宮城県における復興祈念公園基本構想

検討調査有識者委員会 資料

【地元関係者ヒアリングの概要】

平成25年12月10日



国土交通省 東北地方整備局 建政部

○ヒアリングの目的

平成24年度に石巻市が開催した

『南浜地区・中瀬地区 未来の公園づくりワークショップ』

平成25年10月に国土交通省・宮城県・石巻市が開催した

『石巻市南浜地区における復興祈念公園を考える市民フォーラム』

上記の場で集約された意見を補完し

即地的な検討を行うための地域の意向把握を目的とした

○対象者の選出

南浜地区に係わりを持ち

「未来の公園づくりワークショップ」および「市民フォーラム」において

主体的に参加していただいた方の中から

5名を選んで実施した

樋口 伸生
西光寺副住職

みらいの公園づくりワークショップに参加

西光寺の副住職であり、震災以降は月命日に遺族との対話を行っている

○ヒアリング概要 実施日時：平成25年10月29日(火)

- 高齢の被災者にとって、震災前の住宅環境は悪かった。現在は津波被害によって生じた辛さが、より重くのしかかっている。被災前より質の高い空間を作ることが必要だ。その中で、残り少ない時間を、死者への祈りを捧げる時間に充てさせたい。老若問わず、祈りの人生は人を成長させる。政教分離も出来る。
- 震災は辛かったが、ガレキを片付けながら、石巻は良い町で良い人が生きる町に生まれ変わると望みをもった。究極の救い主が現れるかと期待したが、それは無かった。皆ひとりひとりが救世主だと気づいた。市民憲章は復興の良い導き手になると思うから、もっと大切にすべきだ。(繰り返し)老若問わず、祈りの人生は人を成長させる。政教分離も出来る。
- 未だに足が震えている被災者に、公園造り計画が、前向きに生きようとする心持ちや力になってほしい。

鈴木 洋子
門脇小学校元校長

市民フォーラムに参加

発災当時の門脇小校長であり、児童の安全確保と避難誘導の陣頭指揮を取った

○ヒアリング概要 実施日時：平成25年11月15日(金)

- 復興祈念公園は、「鎮魂」と「後世に伝えるもの」が一体となったものが望ましいと思う。現在、設置エリアである南浜町や門脇町の一部だけのものとして考えられているようにも思われる。門脇町には、被災した門脇小学校があり、本間家所蔵の倉庫(米蔵)もある。このような南浜町と門脇町を含め石巻の地理と歴史を踏まえた復興祈念公園にしてほしい。本来、震災遺構と復興祈念公園の在り方は一緒に考える必要があったのではないか。
- 津波の恐ろしさを知らせるには、そこに大破した建物があれば一目瞭然である。門脇小学校の避難の様子(児童の避難、校舎2階から住民避難)についても、校舎があればこそ、より伝えられるものだと思う。後世に何を語り継ぐのか、そのことは「鎮魂」と大きく関わるものだと思う。

阿部 聡史
建築家

みらいの公園づくりワークショップに参加

石巻市の都市計画審議委員であり、震災前より川湊の街並み構造などを研究

○ヒアリング概要 実施日時：平成25年11月17日(日)

- 市民には追悼祈念公園の考え方が分かりにくいので、自然、風土、歴史というどの世代にも共通する視点を通して、石巻市や南浜地区を見た際に、どうあるべきかを考える事が重要である。
- 南浜地区に居住されていた方々の意見を尊重し、施設ありきの公園づくりではなく、地域の歴史や風土を背景として、誰もが公園づくりを理解し、納得した上で進めていくプロセスが大切だと考えている。
- 日和山の宅地周りの独特な石組み、住吉町の舟板壁、雄勝石の屋根材の建造物など、石巻が培ってきた伝統技術、素材の取り入れや、風土に対応する近自然工法の採用など、人工物でつくるのではなく、南浜の生活知や自然の風景を育むようなデザイン工法、さらには市民がそれに継続的に関わられるようなプロセスが必要だと考えている。

矢口 清志
郷土史家

みらいの公園づくりワークショップに参加

南浜地区に生まれ育った地元住民であり、文化人類学の見地から郷土史を研究

○ヒアリング概要 実施日時：平成25年11月17日(日)

- 門脇・南浜周辺では、三湖水(三交水ともいう：双葉町付近、日和山の伏流水、他)と言われる水の流れがあり、釜(定川)からつながる聖人堀などの水系はしっかり捉えなければならない。
- 日本製紙の立地以前は、釜入江は南浜の方まであったと古地図から推測される。南浜付近は氾濫原であり、旧北上川沿いも同様なことから、ぎりぎりの土地利用を行ってきた。
- 聖人堀を三途の川と見立てた北向き地蔵があるほど、昔からこの川の南側には人が居住していなかった。千石船を誘導する河口の詰所付近に人が生活したが、地下水に塩分が多く、水汲みのため上流の門脇まで往来していたなど、土地の履歴を理解する必要がある。

及川 衛

南浜町振興会

市民フォーラムに参加

発災当時の南浜町振興会長であり、防災集団移転にあたり地域のまとめ役を担った

○ヒアリング概要 実施日時：平成25年11月26日(火)

- 震災前日の南浜町振興会の役員会では、宮城沖地震の再来に備えて、津波の映像を見る会を企画したばかりであったが、地域の危機対策は地震、防火に次いで津波は3番目であった。
- 元住民には南浜町には戻りたくないという意向の方々が多く存在しており、震災直後の現地で亡くなられた方々に接した住民に、その傾向は顕著である。
- 平成24年6月に南浜町振興会は解散したが、当時所有していた町内会費は、慰霊碑建立などに充ててほしいと石巻市に託した。
- 防災集団移転促進事業の説明会の際には、新たな住宅建設より先に公園建設構想の話が出るのはいかがなものかなど、公園に対する誤解も生じていた。
- 復興祈念公園建設のポイントは3つあり、基本は多くの犠牲者に対する「追悼・鎮魂」で、次いで今次の津波被害の教訓の「伝承」と、新門脇地区に対する「減災」である。





宮城県石巻港眺望全図(昭和20年代) 郷土史家 矢口 清志 (※南浜地区周辺を抜粋して掲載)